

住まいの支援

■空き家バンク

空き家・空き地を利用したい人に、売却・賃貸を希望する空き家などの情報を紹介する制度です。



さらに、市が連携する金融機関で住宅ローンなどにおける優遇措置が受けられます！

■三世代すまいる支援

三世代の同居を支援するため、市内に住宅を新築する小学生以下の子どもがいる子世帯に対し、50万円を補助しています。

のびのび過ごせる公園

■稻沢公園

クスノキ、タブノキなどの木々に囲まれる、約6,000m²の広大な芝生広場やバラ園を備えた公園。緑のオアシスとして、市民の憩いの場となっています。



■サリオパーク祖父江

木曽川沿いに隣接した、国・県・市、3つの公園の総合愛称。全国的にも珍しい河岸砂丘を活用した造りが特徴的な公園で、木曽川での水上スポーツ、公園の大型複合遊具など、水辺の憩いの場として人気を集めています。



■平和中央公園

春になると、平和中央公園をはじめ、日光川や須ヶ谷川周辺を約1,400本の桜並木がつなぐ「桜ネックレス」が咲き誇り、多くの方が訪れます。

園内には、身体に障害がある子も、ない子も一緒に遊ぶことができる「インクルーシブ遊具」を設置しています。



問い合わせ

稲沢市総合政策部シティプロモーション課

〒492-8269 愛知県稲沢市稻府町1

✉ promo1730@city.inazawa.aichi.jp

📞 0587-32-1125

🌐 https://www.city.inazawa.aichi.jp/



特設サイトで市の魅力を発信中 !!

稲沢市の魅力を「ヤバい、稲沢」
=『ヤバいなざわ』として
動画でPRしています！



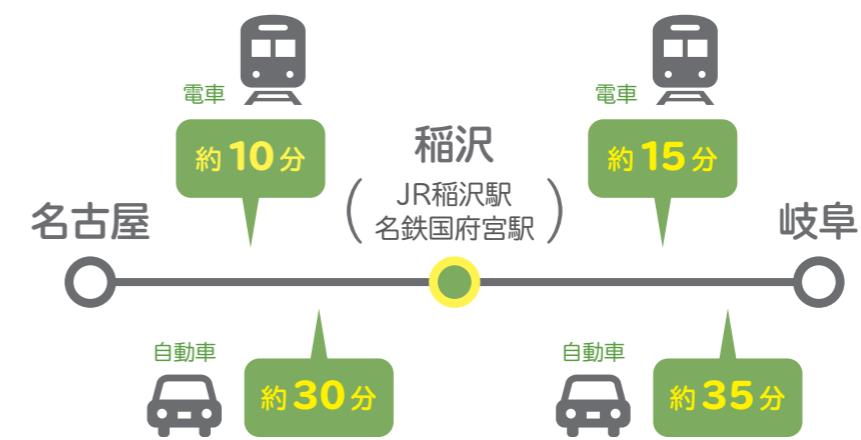
(令和7年10月発行)

稲沢市 移住定住リーフレット

いなざわ



Access



～子育て・教育は稻沢で！～
経済的にサポート！

■子ども医療費などを無料に

出生から18歳到達の年度末まで、入院・通院にかかる医療費を無料化しています。令和7年10月診療分からは大学生等の入院医療費も無料化しています。



～子育て・教育は稻沢で！～
パパママに寄り添います！

■不妊治療費を補助

一般不妊治療費と生殖補助医療費のうち、保険適用分の自己負担額を助成しています。令和7年度から43歳以上の方の生殖補助医療費も対象としています。

■子育て支援・交流の場を提供

子育て支援センターなど、充実した施設で子育てを支援するほか、さまざまな教室・講座などを実施し、ママ同士パパ同士の交流の場を提供しています。



■小・中学校の給食費を助成

中学校の給食費を無料化、小学校の給食費は半額分を補助しています。食物アレルギーのため、毎日弁当を持参している児童・生徒の保護者にも同様の補助を行っています。



■乳児おむつ用品などの購入費を助成

0歳～2歳の未就園児がいるご家庭に、乳児おむつ用品などの購入費として1ヶ月当たり2,000円分の専用ポイントを支給しています。



■保育園の紙おむつを無料に

市内保育園などで使用する紙おむつを市が用意しています。使用済みおむつの持ち帰りも不要です。

■保育園などの給食費を助成

中学3年生から数えて第2子(市民税所得割額71,000円未満)と第3子以降は無料です。それ以外の方は1/3相当を支援しています。

■第2子以降の保育料を無料に

18歳から数えて第2子以降の保育料を無料化しています（第2子のみ所得制限あり）。



～子育て・教育は稻沢で！～
充実した教育環境！

■タブレットPCによるICT教育の推進

小・中学生に1人1台タブレットPCや関連機器を導入し、個別最適な学びを実現するための環境を整備しています。モバイルWi-Fiルーターを貸し出すなど、家庭での持ち帰り学習にも対応しているほか、全放課後児童クラブにおいてもWi-Fi環境を整えています。



■アートに親しむ鑑賞教育

小学6年生全員が荻須記念美術館を訪問し、稻沢が生んだ世界的画家 荻須高徳の作品や生涯について学芸員から学びます。

■オリンピック聖火リレーに中学生を派遣

姉妹都市ギリシャ共和国オリンピア市からの招待により、現地での夏季オリンピック聖火リレーに中学生を派遣しています。またオリンピア市の子どもたちとの交流も行っています。



■産婦配食サービス

産後1ヶ月未満の産婦に対し、家事負担軽減の一助として、配食業者からの弁当（昼食）1食につき250円の助成を行っています。

■「子育て応援アプリ」で
育児をサポート

子育てに関するさまざまな情報を、子育て応援アプリ「すくすくいなッピー」で配信・提供しています。



▲ダウンロードはこちら



全ての妊娠婦、子育て世帯、子どもへの一的な相談支援を行うため、中央子育て支援センター内に「こども家庭センター」を設置しています。



私立を含め、子育て支援センター5カ所、児童館・児童センター11カ所、認可保育施設29カ所、幼稚園4カ所などさまざまな子育て施設が整っています。

Instagramで各支援センターの紹介やイベントの情報などを発信しています！



@INAPPY_KOSODATE

★子どもを尊重する丁寧な保育

市内の公立及び私立の保育園では自分で考え自分から行動する力や非認知能力を伸ばす、子どもの主体性を大切にした保育を0歳児から行っています。



子どもたちの安心・安全

■セーフティ・プラスワン事業

低学年児童が6時間目まで学校で過ごし、さまざまな活動に取り組むとともに、高学年児童とともに一斉下校することで下校時の安全性を高めています。



■ボランティアの見守り

地域のボランティアの方が、犯罪抑止のためにパトロールしたり、児童の登下校をサポートしたりしています。